

群 教 セ	G14 - 01
	平 29. 265 集
	小・幼小連携

相手の立場を考え主体的に関わる児童の育成

— 出会いつながる、計画的・段階的な幼保小の連携を通して —

特別研修員 森 美樹

I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領（2008）総合の目標には、「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」とある。新小学校学習指導要領総則には、「4 学校段階等間の接続」が新設され、幼小の教育の円滑な接続についても記載されている。幼保小連携の取組は、小1プロブレムの解消を目的とするだけでなく、幼児期と児童期の学びをつなげ、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするものであると考える。

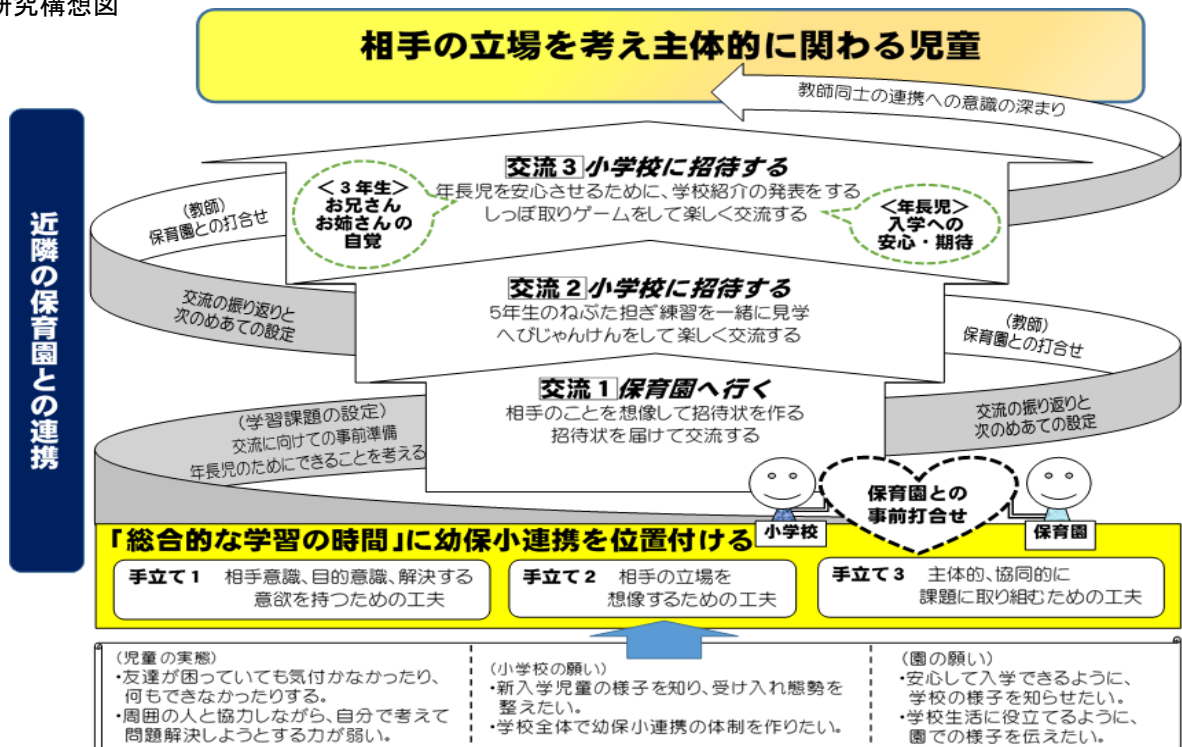
様々な立場の他者との「出会い」を計画的に設定し、「つながる」きっかけを与えることで、相手の立場を考え主体的に関わる児童を育成することが、これからの学校には求められている。

所属校の3年生は、素直な児童が多く、友達が困っていると積極的に手伝おうとする児童も多い。しかし、友達が困っていること自体に気付かなかったり、気付いていても何もできなかつたりする姿も見られる。また、周囲の人と協力しながら、自分で考えて問題解決しようとすることに課題がある。

そこで、現在行われている1年生と年長児による交流のほかに、3年生の総合的な学習の時間に年長児と交流する活動を位置付けることで、他者に思いやりの気持ちを持ち、主体的に関わろうとする児童を育てたいと考えた。また、中学年が幼保小連携の取組の中心となることで、一部の教師や児童だけが新入学児童に関わるのではなく、誰でも新入学児童に関心を持ち、手を差し伸べることができる土壌を作り、新入学児童の不安解消に努めたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

3年生の総合的な学習の時間に幼保小連携を位置付ける

- 手立て1 相手意識、目的意識、解決する意欲を持つための工夫
- 手立て2 相手の立場を想像するための工夫
- 手立て3 主体的、協同的に課題に取り組むための工夫

手立て1は、相手意識、目的意識を明確にし、相手のために何かをしようという意欲を持つための工夫である。始めに、子どもだけで学校に通えるか不安に思っている年長児や保護者の気持ちを伝える手紙を保育園の先生に書いてもらい、それを単元の導入で活用することにより、活動の目的意識・相手意識を持てるようにする（実践1）。次に、交流活動の事前学習として、3年生らしい行動や、相手を思いやる行動について考える時間を設け、「めあてふり返しシート」にめあてを記入してから活動に取り組むようにする。

手立て2は、年長児の立場を想像することで、他者への思いやりの気持ちを持ち、積極的に関わろうとする意欲を持つための工夫である。自分が年長だった頃を想起させ、その時の気持ちを考えさせる。また、交流活動の前には、事前の練習やリハーサルの時間を十分確保し、交流会当日をはっきりとイメージさせることで、児童が年長児の前で、自信を持って行動できるようにする。

手立て3は、主体的、協同的に課題に取り組むための工夫である。課題設定の場面では、グループごとにKJ法で意見交流させる。その際、グループ内で一人一人が違う色の付箋紙を使うことで、意見を出し合っていることを視覚的に分かるようにする。交流3（実践2）では、分かりやすいルールのゲームをすることで、チームで協力したり、児童が年長児をサポートしたりして協同的に取り組み、児童も年長児も楽しく遊んで、互いに満足感を持てるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 総合的な学習の時間に幼保小連携を位置付けたことで、課題解決をする時間が十分確保できた。
- 手立て1～3により、児童は年長児が安心したり喜んだりする様子を想像しながら、目的意識を持って準備や製作を行うことができた。交流場面では、年長児の表情を確かめながら、3年生としての自覚を持った言動をすることができ、相手の立場を考え主体的に関わることができた。

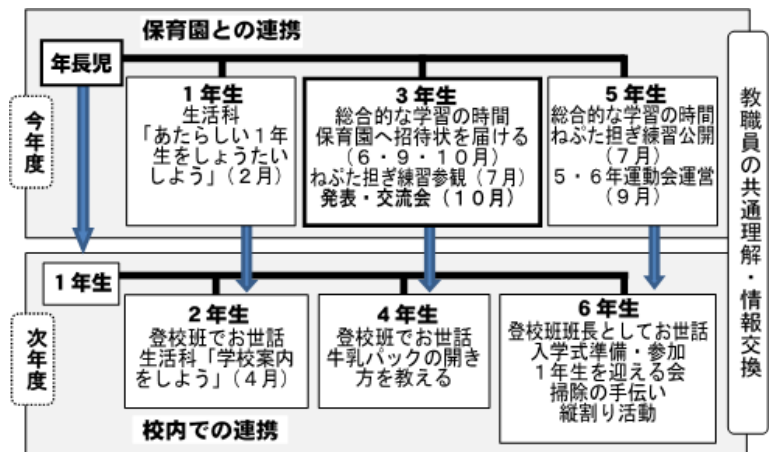


図1 2年間の連携の仕組み

- 保育園と打合せを行い、段階的に交流をしたことで、互いの様子や教育に対する理解が深まり、次年度への連携の意欲が高まった。また、図1のような2年間の連携の仕組みもできた。来年度も継続していくことで、本校全体で幼保小連携の共通理解が生まれ、幼保小接続並びに異学年交流がスムーズにいく好循環が生まれるのではないかと考える。

2 課題

- 今年度は、本校の総合的な学習の時間の学習内容を、保育園と連携しやすいように変更しながら進めていった。無理のない学習計画で進められるように、年間指導計画を改善していきたい。
- 今回は、隣接する保育園のみとの交流であった。今後は、他の保育園・幼稚園とも交流が可能になるように、様々な連携スタイルを柔軟に考えていきたい。

実践例

1 単元名 総合的な学習の時間「おじまたんけんたい」（第3学年・1、2学期） ～新1年生のために「学校」を紹介しよう～

2 本単元について

本単元は、本来は社会で「学校のまわり」を探検したり、尾島カルタで遊んだりしたことをきっかけに、自分たちの住む地域に目を向けるための教材であるが、その中に、幼保小連携を進めるための取組を付加して設定し直したものである。3年生は、社会科でも地域について学習をすることから、身近な地域にある保育園に目を向け、年長児と交流を持つことは、3年生の時期に適していると考える。また、学習指導要領解説総合的な学習の時間編（2008）第4章第2節の内容の取り扱いについての配慮事項（5）に、「グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと」とある。よって、幼保小連携の取組を3年生で行うことは、意義あることと考える。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	新1年生のために学校を紹介する活動を通して、地域に対する理解を深めるとともに、年下の子を思いやり、積極的に関わろうとする意欲や態度を育てる。		
評価 規 準	関心・意欲・態度	尾島地区に関心を持ち、地域や学校のことを積極的に伝えようとしている。 同じ地域に住む年長児を思いやり、積極的に関わろうとしている。	
	思考・判断・表現	課題解決のために計画を立てたり、分かりやすくまとめる方法を考えたりしている。	
	技能	調べたり聞いたりして分かったことをいろいろな方法でまとめ、年長児が分かりやすいように表現している。	
	知識・理解	まとめたことを発表し合ったり、振り返りを交流し合ったりすることで、地域のよさや互いのよさを認め合っている。	
過程	時間	主な学習活動（☆は保育園との関わり）	備考（◆は3学年以外）
課題 把握	第1 ～2時	・「尾島かるた」で遊び、札にある場所を地図で確かめる。	【社会】町探検 保育園前を通り、 意識付けをする。
	第3 ～4時	（実践1）学習課題の設定 ・保育園の先生から届いた手紙の内容を知り、学習課題を設定する。 ☆事前に隣接する保育園に行き、授業の趣旨説明、協力依頼をする。 （打合せ1）	
	第5 ～6時	交流1 保育園へ招待状を届けに行き、交流する。 ・交流のめあてを設定し、学校行事などの招待状を作成する。 ・クラスごとに保育園へ行き、招待状を渡し交流をする。 ①7月、ねぶた交流前（3組）②9月、運動会前（2組） ③10月、発表交流前（1組） ☆事前の趣旨説明と、交流活動の場所や内容について保育園側に依頼をする。 （打合せ2）	◆学校便りで活動の様子を紹介し、各園にメールで配信する。（校長）
課題 追究	第7 ～8時	交流2 小学校に招待し、ねぶた担ぎ練習の見学と交流をする。 ・5年生のねぶた担ぎ練習を年長児と一緒に見学し交流するためのめあてを設定する。 ・隣接する保育園の年長児を招待し、交流活動をする。 ☆事前に、ねぶた学習に関わる5年生と地域の方に授業の趣旨説明、協力依頼をする。 ☆ねぶた担ぎを見学する場所と、3年生と年長児が遊ぶ場所を、5年生の活動場所と重ならないように調整する。	◆学校便りで活動の様子を紹介し、各園にメールで配信する。（校長）

	第9 ～20時	<ul style="list-style-type: none"> 相手の必要としている情報に合った内容を選び、学校を紹介する方法を考えてまとめる。 ☆夏休みをまたいだ活動となるので、保育園と連絡をとり、夏休み中や運動会での年長児の様子などを伝えて、児童の意識が継続できるようにする。学校での児童の様子や活動の進捗状況も伝え、10月の交流活動を楽しみにしてもらえようとする。 	◆夏休み中、1年生担任を中心に、各園へ保育参観や電話連絡等をする。
ま と め	第21 ～23時	<p>(実践2) 交流3 小学校に招待し、学校紹介の発表と交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長児を招待し交流するための、めあてを設定する。 年長児を招待し交流をする。 学習活動を振り返り、自己評価をする。 ☆活動内容を説明し準備を確認する。児童と年長児について情報交換をする。(打合せ3) ☆交流活動中は、保育園の先生にも積極的に活動に入ってください、児童と年長児だけでなく職員間の連携も図れるようにする。 ☆幼保小連携の取組を振り返り来年度の活動に備える。(打合せ4) 	◆学校便りで活動の様子を紹介し、各園にメールで配信する。(校長)

3 実践1・2及び具体化した手立てについて

実践1・2は23時間計画の第3時と第22時に当たる。始めに、幼保小連携の取組を計画的に行うために隣接する保育園に行き、お互いの年間指導計画を交換し、交流等の計画を立てた(打合せ1)。

実践1の導入では、保育園の先生からの手紙(資料図9)を児童に聞かせることで、相手意識、目的意識を明確に持たせるとともに、自分たちが何とかしてあげたいという意欲も喚起した(手立て1)。

次に、自分が年長児だった頃の遊びや生活の様子、入学前の不安だった気持ちを想起させた(手立て2)。相手の立場を十分考えさせることで、実践1のめあて「年長児を安心させるために何ができるか考える」活動につなげた。

何ができるか具体的に考える場面では、自分の考えを付箋紙に書いた後、グループごとにKJ法で意見交流をした。付箋紙を貼る台紙に、KJ法の手順を明記したことで、スムーズに考えをまとめることができ、グループ内で一人一人が違う色の付箋紙を使ったことで、友達と似た考えや違う考えがあることに気付いたり、みんなの考えが集まるよさに気付いたりすることができた(手立て3)。

4 授業の実際

(1) 実践1 学習課題の設定

保育園の先生から手紙をもらったことに驚き、目を輝かせて聞き入っていた。そして、「さすが3年生だ」と感心してもらえたことと、「年長さんに学校のことを教えて欲しい」と頼られたことに大喜びし、「教えてあげたい」という意欲を持つことができた。

始めに、自分が年長児だった頃の園での生活や遊びについて想起させた。児童は友達と「〇〇があったよね? □□をしたよね?」などと確認し合いながら、園にあった遊具や友達との遊び、行事などについて、生き生きとワークシートに書き、たくさんの意見を発表することができた。次に、小学校入学前の気持ちについて想起させた(図2)。すると今度は、教室がしんと静まりかえり、首を傾げたり、頭をコツコツとたたいたりしながら真剣に考え、ワークシートに一生懸命書こうとする様子が見られた。

これは、前者の発問が、容易に想起しやすい事実を問うものであったのに対し、後者の発問が、当時の気持ちという漠然とした感情を問うものであったためである。児童は、実際に年長児だった頃の

不安だったこと

- ・友達になれるかな。・朝起きられるかな。
- ・朝どうやって行くのかな。
- ・給食は? ・勉強は? ・わくわく、うれしいな。
- ・時間に間に合うかな。
- ・先生や2年生は、教えてくれるかな。
- ・一人で歩くの? ・道に迷わないかな。
- ・登校班(お兄さん、お姉さん)のこと

図2 入学前の気持ち(手立て2)



図3 主体的・協同的な活動(手立て3)

気持ちとは異なるかもしれないが、恐らく自分はこんな気持ちであつたらうと想像することで、相手の立場を想像し、相手のために何が出来るか考える活動につなげることができた。児童はグループで生き生きと意見交流しながら（前頁図3）、図4のような考えを出し合い、学習課題の設定へつなげることができた。

本時のまとめ <KJ法で出された考えの題名> 「学校のこと」「勉強のこと」 「宿題」「教科」「先生のこと」 「プールのこと」「遊具・校庭のこと」 「友達のこと」「遊びのこと」 「給食のこと」「図書室」 「通学路のこと」「登校班のこと」 「畑のこと」「教え方」「声の調節」 「自己紹介」「やさしい声かけ」	次時で決定 <教えてあげること(テーマ)> ○学校での勉強について ○学校について ○休み時間・友達のこと ○給食について ○図書室について ○登下校について ○学校のまわりについて
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

図4 グループで出された題名から学習課題を設定する

本時の振り返りの場面では、黒板に貼られた各班のホワイトボードを見て、「わあ、カラフル」という感嘆の声が上がり、年長児のために一人一人が意見を出し合って考えをまとめたことを実感することができた。振り返りには、「年長児に安心して入学してほしい」「みんなの意見をまとめれば、年長児に教えられると思った」「年長児に教えるのが楽しみ」と、活動への意欲を感じる記述が多く見られた。

(2) 実践2 小学校での学校紹介の発表と交流

本校の体育館にて、3年生89名と年長児22名で交流3を行った。児童は、年長児の前で緊張しながらも張り切って発表し（図5）、年長児は、真剣に発表を聞く姿が見られた（図6）。

「しっぽ取りゲーム」では、3年生が年長児の手を引いてコート内へ連れて行ったり、しっぽを付けてあげたりして、お兄さんお姉さんらしさを発揮することができた（図7）。段階的に交流活動を行ってきたことにより、年長児は広い会場に臆することなく元気に走り回り、児童も年長児も夢中になって追いかけて楽しむことができた。



図5 発表の様子（交流3）



図6 真剣に聞く年長児（交流3）

5 考察

本単元のまとめである交流3（実践2）の振り返りを見ると、いずれの記述も、相手と自分の関係を意識できたものであり、「相手の立場を考え、主体的に関わる児童」に近付けたと言える（図8）。

また、交流3（実践2）では、活動に入る前に、みんなで手遊びを行った。この手遊びは、年長児が日頃から行っているなじみ深いものである。この手遊びを行うことで、年長児には自分の知っていることを行うという安心感を与えることができた。さらに、場の一体感や楽しい時間を共有しているという雰囲気を作ること、次の活動に備えるという意識付けをすることができた。このことから、保育園で行っていた指導や習慣の一部を受け継ぐことは安心して小学校生活をスタートさせることにつながると言える。今回の連携について、学校の教員や保護者はもちろんのこと、保育園の保護者や地域の方も関心を持ってくださり、交流を喜ぶ声がたくさんあった。交流3の直後に行われた就学時健診では、「また来たよ」と得意な年長児の微笑ましい姿が見られ場に慣れることの重要性を改めて感じた。

今年度の「出会い」が、次年度以降に「つながる」ために、実現可能な取組として残していきたい。人間関係は一朝一夕で築けるものではないので、多くのことを一度に求めるのではなく、交流の回数を追うごとに、お互いのつながりを深めていけるように計画を精査し、保育園との連携をさらに進めていきたい。



図7 しっぽを付ける様子（交流3）

<交流3(実践2)後の振り返り> ○年長児の反応や表情から満足感を得られた児童…75% 「相手が楽しんでくれたから良かった」 「年長さんが安心した顔をしたので、私も安心した」など
○自分が行動することで年長児の変化に気付いた児童…14% 「途中で年長さんが分からなそうな顔をしていたので、ゆっくり話してあげたらうなずいてくれた」 「私がにこっとしたら年長さんも笑ったから良かった」など
○もっと相手のことを考えるべきだと反省できた児童…14% 「(しっぽ取りゲームでは) もうちょっと手加減した方が良かった」 「つい、本気を出してしまった」 「年長さんが来る前に、あせって友達にちょっと怒っちゃった」など
○仲間と協力するよさに気付いたと書いた児童…7% 「最初と比べて、みんなのアドバイスがあったから上手にできた」など

図8 交流3（実践2）の振り返り

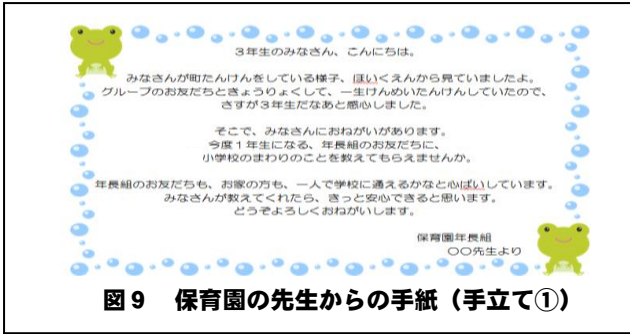


図9 保育園の先生からの手紙（手立て①）

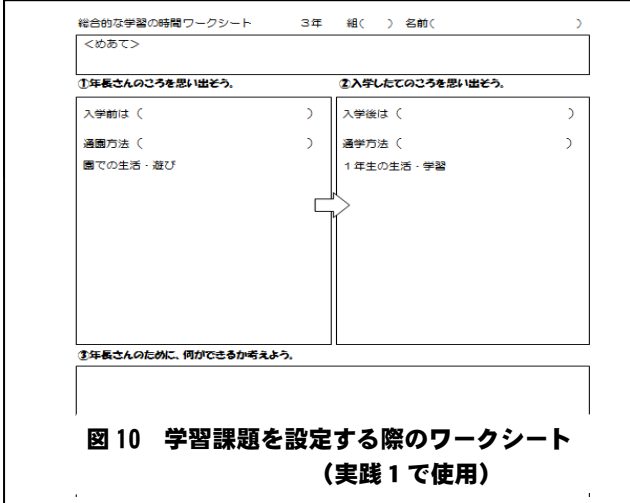


図10 学習課題を設定する際のワークシート (実践1で使用)

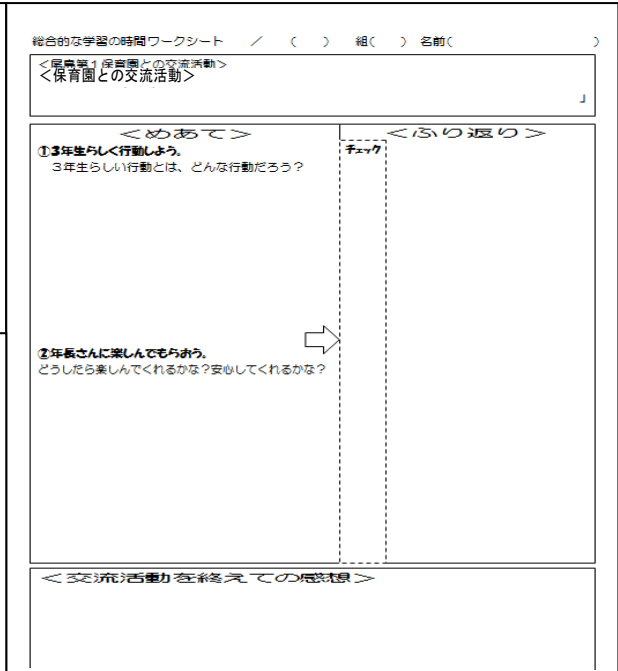


図11 交流活動の事前事後で使用したワークシート (「めあてふり返りシート」)

自分でめあてを設定してから交流活動を行い、振り返りを行うことで次の活動へ生かしていく。

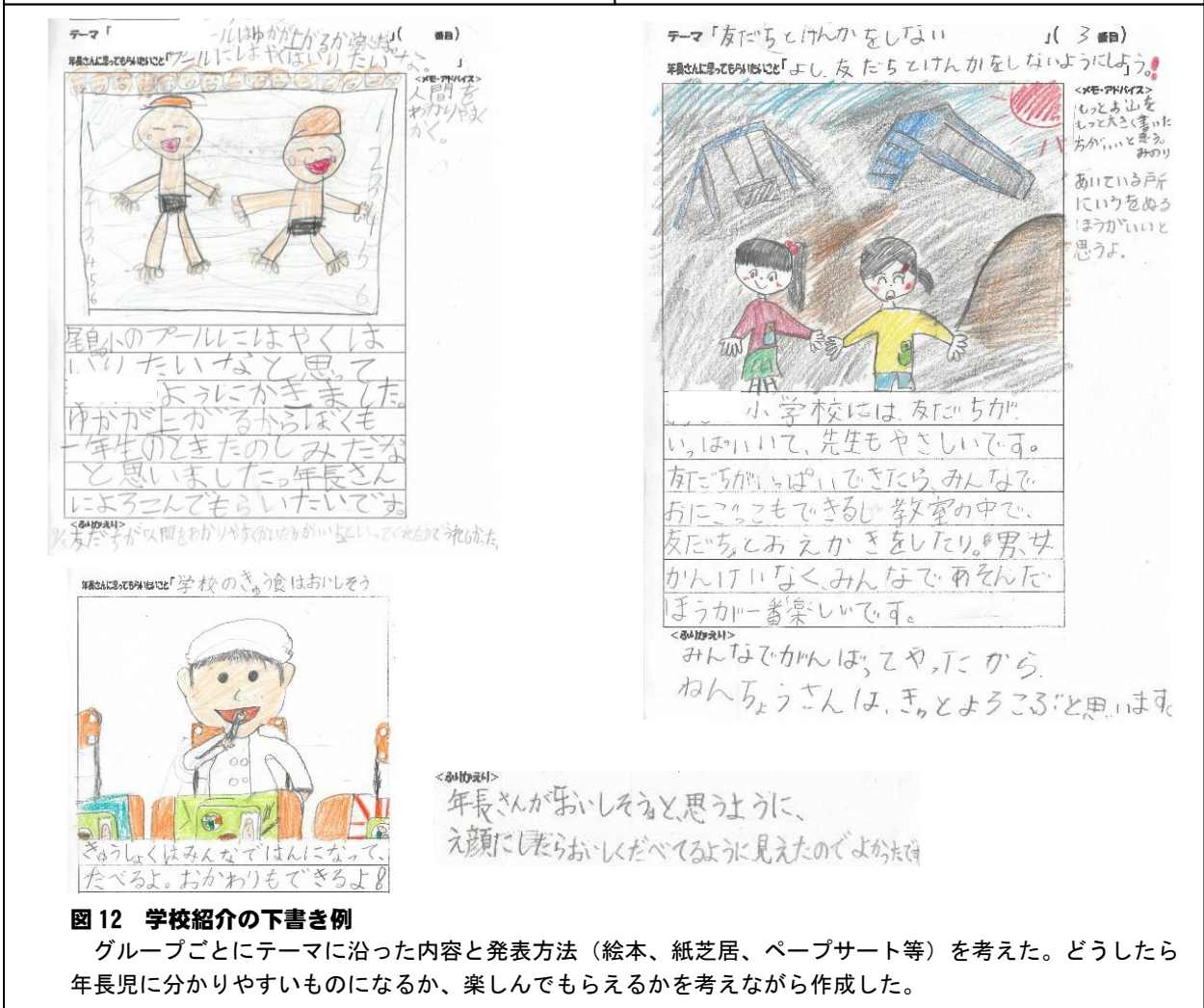


図12 学校紹介の下書き例

グループごとにテーマに沿った内容と発表方法（絵本、紙芝居、ペープサート等）を考えた。どうしたら年長児に分かりやすいものになるか、楽しんでもらえるかを考えながら作成した。